

## フラワーソン2022に参加しました

2022/7/11 自然環境部 陸域担当チーム 篠原 由香

エコ森林通信Vol.21に掲載の通り、6月18～19日に開催された北海道新聞社と公益財団法人北海道新聞野生生物基金主催の「北海道フラワーソン2022」に、当社からも10名が参加しました。陸上の動植物調査を専門としているメンバーをはじめ、海域調査専門や顕微鏡を用いた室内分析専門、データ解析専門、そして取締役など、通常業務ではなかなか森林へ入ることがないメンバーも参加し、楽しいひと時を過ごしました。



フラワーソン参加の様子(2022/6/18)

エコ森林やその周辺を3時間半程度散策しながら、花が咲いている植物を中心に種名と開花状況を記録しました。結果として、エコ森林では40種、その周辺では42種、全体で68種の植物が記録され、そのうち47種の植物が花を咲かせていました。

エコ森林は標高600～730mに位置する<sup>[1]</sup>ため、山地帯から亜高山帯に生育する植物を観察することができます。今回は、ミネカエデやノビネチドリ、マイヅルソウ、タチカメバソウ、ナンブソウ、ツマトリソウ等の開花が確認されました。また、低地では春に咲くエゾノリュウキンカ(山菜でいうヤチブキ)やシラネアオイも、比較的標高の高いエコ森林では今時期に花を咲かせていました。各調査地区の結果は6月中にとりまとめられ、フラワーソン2022の結果としてHP上に掲載されます<sup>[2]</sup>。

このような市民参加型の動植物一斉調査は、

バードソン(鳥類)、ハーブソン(両生類・爬虫類)、ザリガニソン(ザリガニ)等が開催されています。これらの調査には、多くの一般市民の皆さんが参加しており、市民の環境保全への関心の高まりが伺えます。身近な環境を知るためのほんの少しの活動が、今後の環境変化を知るための基礎データの一端を担うことに繋がるかもしれません。

弊社では、自然と人間の共生する生態社会において調和ある環境保全と利用開発を事業としています。そのうえで、自然環境の現状把握や将来予測のための生物の基礎データの取得・蓄積は重要であると考え、このような取り組みへの継続的な参加を通じて、社会に貢献しています。



ミネカエデ



山菜シリーズ[左:ユキザサ(アズキナ)、右:エゾノリュウキンカ(ヤチブキ)]

[1] "エコ森林通信Vol.2～エコニクス森林の植物～". ECONIXE Co., Ltd. <http://www.econixe.co.jp/contents/detail4.php?id=372>.

[2] "北海道フラワーソン". 2022 北海道フラワーソン. <https://flowerthon.net/>.